

目的 和装用各種衣類の顕熱特性を知ることによって、和装時の快適な衣生活を行うに必要な資料を得ることを目的とする。

方法 1)立位女子サーマルマネキンを用いて室内無風下で着衣の局所別熱抵抗およびクロー値を求める。2)供試試料は下着(5種)長じゅばん(4種)長着(7種)羽織・コート(4種)ショール(1種)帯(4種)および寝まき(2種)の計27種、その他小物類である。3)実験対象は単品衣類およびこれらを重ね着した和装に区別し、両者の関係を検討する。その他4)衣服重量を測定した。

結果 1)単品衣類について：下着類では肌じゅばんは胸部および上腹前面、裾よけは大腿部の熱抵抗が大であった。長じゅばん、長着類では腹部・腰部・背部で小さく、胸部・上腹前面・大腿部で大となった。羽織・コート・ショールは被覆部のみが保温力をもち形状による差が見出された。ショールの胸部の熱抵抗は特に大である。なおこれらの衣類の重量とクロー値との関係は、衣服重量が大なる程クロー値が大になるほぼ直線的傾向が見出されたが帯類のみ異なった独自の方向係数を示した。2)重ね着した和装について：重ね着の熱抵抗のプロフィールはほぼ最外層の長着のプロフィールに類似した傾向を有するかなお上肢では肌じゅばんの影響が前腕部に、体幹では帯の影響が上腹後面で強調された。また重ね着の熱抵抗は、各部位で単品衣類の和よりも小さくなるが、両者の差は上腹前面、大腿前後面で大きく、背部は最も小さかった。着衣全体のクロー値と単品クロー値との間には直線的関係を見出し、クロー値と衣服重量との間にも同様な直線的関係を見出した。